

業界から一言

製造業

食料品製造／洋菓子関連は、冷菓をはじめ、焼き菓子などが順調に推移し、前年比微増。しかしアーモンド、砂糖などの原材料価格の上昇と原油価格の高騰に伴う包材の値上げが収益を圧迫。水産物加工は、原料費の高騰に伴う製品値上げ予告に対する駆け込み需要があり売上が増進したところがある。製麺は、季節商品である「おざら」が若干売上を伸ばした。また、国産ワインの出荷量がここ数ヶ月微増傾向。

繊維・向製品

繊維・向製品は、日傘が天候不順のため需要が上からず、在庫が増加したため、来期の受注減が見込まれる。また、クルーズに対応した商品開発をはじめた企業がある。衣服製造は、下請け加工が中心であり、先行きに不安。

窯業土石製品

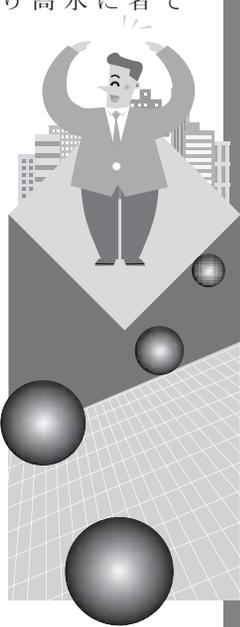
生コンクリート

の出荷量は、民間物件の動きがあったが公共土木物件が少なく前年比減。また、二次製品を使用している工事が多くなり、骨材使用量がますます減少傾向。今後物件が少なく、厳しい状況が続くと予測。

非製造業

小売業／ショッピングセンタ

1は来客数が増加しても、目的買いの来店者が多く、売上の増加には結びついていない。水産物は、原油価格の高騰に伴い、国内産練り物製品が値上がり傾向にあり、寒い季節をむかえおでん類などの消費への影響が懸念。食肉は、豚肉のセーフガード発令が予測され、在庫量が増加したため、単価が値下がりし、収益が減少。牛肉は、益明けの天井価格が過ぎた模様。また、今年は猛暑の影響でバーベキューなどの屋外イベントが不調で、一般消費が伸び悩んだ。青果は、県外資本の大型店が、本部一括仕入で県内の市場を利用しないため、取引量が減少している。家電は、昨年はオリンピックと猛暑の影響で液晶テレビ、エアコンが異常に伸びたため、前年比減。液晶は販売価格が下落しているため収益が減少。今後は、地上波デジタル放送の普及による買い換え需要に期待。ガソリンスタンドは、元売り各社が八月に続き、九月も二円程度値上げを予定しており、小売価格に確実に転嫁する必要がある。低価格帯の車が売れ筋であり、加えて値引き幅が大きくなったため売上高が減少し、収益が激減。



山梨県中小企業団体中央会

情報連絡員報告
(平成17年 8月分)

景況情報

調査対象の50業界のDI値は、製造業においては、「業界の景況」は回復、「売上高」はやや回復、「収益状況」は不変、非製造業においては、「業界の景況」は不変であったが、「売上高」は悪化、「収益状況」はやや悪化、全体としては「業界の景況」はやや回復、「売上高」「収益状況」はやや悪化した。

製造業の一部(自動車関連など)において明るい兆しが見え始めているが、原油価格高騰に伴うコストの増加分を販売・納入価格に転嫁できない業界は、収益状況が悪化しているなど、ますます企業間格差が拡大している。

サービス業
ホテル・旅館は、ファミリー中心の消費者ニーズに対応して来客数が増加したところがある。また、

日帰りバスツアー及びインターネットによる個人・グループ旅行の予約が増加しており、それに対応したPRを行う必要がある。

建設業／民間建築物件の需要が少ないのに加え、指し値による発注のため、赤字工事となる場合がある。利幅が少なくとも受注可能な企業は多忙である。骨材価格が値戻して値上がりしたが、受注単価に反映できるかは不明である。加えて、年度末に向けての見積もりが少ないなど、先行き不透明な要素が多い。管工事は、請負工事の減少により、景況感、収益力ともに悪化。

運輸業／タクシー業界は、昨年ほど猛暑でなかったため、利用客が減少し、収益が減少。バス業界は、原油価格の高騰が経営を圧迫。トラック業界は、省エネに配慮した事業経営も限界が近く、石油関連製品の経費が増加したため、廃業者の増加が懸念。